

第8回「芥川作曲賞」決まる

伊藤 弘之氏の作品

「2台のピアノとオーケストラのための〈シーシュポスの神話〉」に

「芥川作曲賞」の第8回受賞曲は、8月29日（土）午後3時より東京・サントリーホールでの演奏会形式による公開選考の結果、伊藤 弘之氏の作曲による「2台のピアノとオーケストラのための〈シーシュポスの神話〉」に決定した。同氏には、賞状とあわせて賞金50万円が贈られた。

芥川作曲賞は、戦後のわが国音楽界の発展に多大の貢献をされた故芥川也寸志氏の功績を記念して、サントリー音楽財団が日本作曲家協議会の支援を得て1990年4月に創設したもの。故人の深い音楽愛、明晰な音楽観と音楽の振興によせられた熱情を追慕して、わが国の新進作曲家のもっとも清新にして将来性に富む作品を対象に、演奏会形式により公開選考するという、作曲賞としてはわが国で初めてのユニークな試みとなっている。

なお、この日、公開選考演奏会に先だて、第6回受賞者・権代敦彦氏の受賞記念サントリー音楽財団委嘱作「Father Forgive~The Litany of Reconciliation~+In Paradisum」の初演が行われた。

▽第8回「芥川作曲賞」

伊藤 弘之（いとう ひろゆき）

<受賞理由>

きわめて独創性の高い語法を駆使し、ヴァイタルでエネルギーのある表現を達成している。優れた完成度を持ちながら、なお将来性が期待される新鮮さを持つ点が一致して評価された。

<略歴>

伊藤 弘之（いとう・ひろゆき）

1963年4月1日山形県酒田市生まれ。87年渡米。94年カリフォルニア大学サン・ディエゴ校音楽学部大学院博士課程修了。博士号（Ph. D.）を得る。作曲を湯浅譲二、池辺晋一郎、ロジャー・レイノルズ、ブライアン・ファーニホウの各氏に師事。95年ヌオヴェ・シンクロニー国際作曲コンクール（ミラノ）で第1位受賞。受賞作<4つの

ヴァイオリンのための「XAGNA (ザーグナ)」>がリコルディ社より出版される。95年にはサン・ディエゴで個展を開催。96年ダルムシュタット国際現代音楽夏期講習にて<ソプラノ・リコーダーのための「サラマンダーII」>でシュティペンディウム賞を得る。同年帰国、活動の拠点を東京に移す。

他の作品に、<2人のヴァイオリン奏者のための「ジェミナイ」>(89年)、<ピッコロのための「サラマンダーI」>(95年)、<フルート、クラリネット、ピアノのための「ゾーン」>(97年、秋吉台フェスティバル委嘱)、<12人の奏者のための「ミラー」>(97年、Nieuw Ensembleにより初演)、<トロンボーンのための「夜の影II」>(98年)などがある。

作曲以外にも、JMLセミナー入野義朗音楽研究所で「若手芸術家との出会いシリーズ」企画委員としての活動(注目される若手作曲家による自作についてのレクチャーシリーズの企画・運営)も行なっている。

第8回芥川作曲賞 選考経過

1. 1998年5月7日(木)午後1時より東京紀尾井町、ザ・フォーラムにおいて第一次選考会を開催。1997年4月1日より1998年3月31日の間に国内外で初演された日本人作曲家の管弦楽作品約60数曲を対象に選考し、芥川作曲賞にふさわしい清新にして豊かな将来性を秘めた以下4作品を「第8回芥川作曲賞」の候補に選定した。選考委員は一柳 慧、松村禎三、湯浅譲二の3氏。(50音順)

- 伊藤弘之作曲 2台のピアノとオーケストラのための<シーシュポスの神話>
(初演: 1998. 2. 20 横浜市文化振興財団主催
「日本の作曲家シリーズ第21回演奏会」)
- 武智由香作曲 <テキストの出口>
(初演: 1997. 4. 23 東京芸術大学主催
「芸大定期オーケストラ第274回新卒業生紹介演奏会」)
- 田頭優子作曲 <LION...>pour clarinette et orchestre
(初演: 1997. 10. 2 名古屋音楽大学主催
「名古屋音楽大学作曲学科教員第20回作品演奏会」)
- 斉木由美作曲 <Goutte de VERBUM / ことばの雫>
(初演: 1997. 11. 7 グループ<炎>主催
「第9回グループ<炎>管弦楽作品の夕べ」)

(演奏順)

2. 1998年8月29日(土)、午後3時よりサントリーホールにおいて上記4曲を公開演奏(指揮=小松一彦、新日本フィルハーモニー交響楽団)。演奏終了後、ステージにおいて3選考委員による公開討議を行なった結果、「第8回芥川作曲賞」受賞曲に伊藤 弘之氏の作曲による「2台のピアノとオーケストラのための<シーシュポスの神話>」が選定された。
3. 公開選考終了後直ちに同ステージにおいて贈賞式が行われ、サントリー音楽財団理事長・佐治敬三より賞状、賞金(50万円)が授与された。
なお、伊藤 弘之氏には、サントリー音楽財団より交響管弦楽曲の新作が委嘱され、完成次第同財団主催のコンサートで初演される。(委嘱料100万円)

▪
〔ご参考〕

「芥川作曲賞」について

1. 名 称
「芥川作曲賞」
2. 選考対象
毎年、前年の4月1日から翌3月31日の間に国内外で初演された(放送を含む)新進日本人作曲家による交響管弦楽曲の中からもっとも清新かつ将来性に富む作品1曲を選定します。
3. 選考委員
芥川作曲賞運営委員会(サントリー音楽財団と日本作曲家協議会で構成)が数名の選考委員を委嘱します。(本年は、一柳 慧、松村禎三、湯浅譲二の3氏)
4. 賞
 - (1) 賞状、賞金50万円。
 - (2) 受賞作曲家に新しい交響管弦楽曲を委嘱します。委嘱料100万円。
 - (3) 委嘱作品は完成後、サントリー音楽財団の主催する公演で初演します。
5. 選考方法
 - (1) 第一次選考会において候補作品数曲を選出します。
 - (2) 公開演奏会形式で最終選考会を開きます。選考方法としては、まず候補作品数曲を一括演奏し、終了後その場で選考委員が公開討議を行ない、受賞作1作を選定、贈賞します。
6. 贈賞期間
1991年より2000年までの10年に10回の贈賞を行います。

●過去の受賞者

- 第1回（1991年） 高橋 裕 <Symphonic Karma>
第2回（1992年） 山田 泉<一つの素描 ピアノとオーケストラによる II>
第3回（1993年） 菊池幸夫<ピアノと管弦楽のための「曜変」>
猿谷紀郎<Fiber of the Breath（息の綾）>
第4回（1994年） 江村哲二<ヴァイオリン協奏曲第2番「インテクステリア」>
第5回（1995年） 伊左治 直<畸形の天女／七夕>
第6回（1996年） 権代敦彦<DIES IRAE /LACRIMOSA（怒りの日／嘆きの日）>
第7回（1997年） 川島素晴<Dual Personality>

以 上